

第11回
自治体国際交流表彰
(総務大臣賞)

受賞団体事例紹介

総務省
一般財団法人自治体国際化協会

自治体国際交流表彰の概要

1 事業の目的

本表彰事業は、日本の自治体と海外の自治体との姉妹自治体提携に基づく交流活動(以下、「自治体国際交流」という。)のうち、創意と工夫に富み、地域の振興に質するような取り組みを行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、自治体国際交流の更なる活性化を図り、もって、地域の国際化に質することを目的に、平成18年度から毎年度実施しております。

第7回表彰より、名称を「姉妹自治体交流表彰」から「自治体国際交流表彰」と変更し、姉妹自治体交流だけでなく、特定分野の交流などについても広く募集の対象とい

2 主催

総務省、一般財団法人自治体国際化協会

3 表彰対象

先進性、独自性、継続性、活発性、協働性、連携性、及び効果等の面から優れた自治体国際交流を行っている都道府県、政令指定都市、その他の市区町村、及び地域国際化協会・国際交流協会等の民間非営利団体を対象とします。

4 賞の内容

総務大臣賞 3団体以内

5 応募・審査

応募のあった団体、及び都道府県・政令指定都市から推薦のあった団体について、別途、設置している「自治体国際交流表彰審査委員会」(委員長:中邨章 明治大学政治経済学部名誉教授)における審査を経て、総務省及び一般財団法人自治体国際化協会が受賞団体を決定します。

今回は35団体から応募があり、厳正な審査の結果、以下の3団体に決定しました。

【総務大臣賞】

新潟市(新潟県)

大和高田市・リズモ一都市友好協会及び大和高田市(奈良県)

内子町(愛媛県)

【問い合わせ先】

一般財団法人自治体国際化協会 交流支援部 交流親善課

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目7番 相互半蔵門ビル6階

電話：03-5213-1723 FAX：03-5213-1742 E-mail:shimai@clair.or.jp

URL：<http://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/hyoushou.html>

総務大臣賞

新潟市(新潟県)

提携先:ガスベルトン市(米国)、ハバロフスク市(ロシア)、ハルビン市(中国)
ウラジオストク市(ロシア)、ピロビジャン市(ロシア)、ナント市(フランス)、
ウルサン広域市(韓国)

姉妹・友好都市、交流協定都市との交流事業

地域の概要

人口は2017年時点

新潟市



- ◇人口：797,965人
- ◇面積：726.45km²
- ◇概要：新潟市は、東京から北北西約250km、新幹線で約2時間の位置にあります。安政の修好通商条約に基づき1869年に開港し、世界に開かれた港町となりました。周辺市町村との合併を経て2007年に政令指定都市に移行。「日本海拠点の活力を世界とつなぐ創造交流都市」を目指しています。

ガルベトン市



- ◇人口：49,608人
- ◇面積：539.6km²
- ◇概要：ガルベトン市は、米国テキサス州南東部、メキシコ湾に浮かぶガルベトン島にある港湾都市です。亜熱帯性気候のため、冬でも温暖なリゾート地で、観光都市としての発展を目指しています。2008年にハリケーンによって大きな被害を受けましたが、着実な復興を遂げてきました。

ハバロフスク市



- ◇人口：607,216人
- ◇面積：388.7km²
- ◇概要：ハバロフスク市は、アムール川の中流域東岸に位置するハバロフスク地方の州都で、ロシア極東の中心都市です。ロシア政府による新型特区が設置され、経済発展への期待が高まっています。アムール川は冬に完全に凍結し、氷の上で釣りを楽しむ市民の姿は冬の風物詩となっています。

ハルビン市



- ◇人口：9,952,000人
- ◇面積：53,100km²
- ◇概要：ハルビン市は、中国黒竜江省の省都です。中心部にはロシア風の建築が立ち並び、独特な雰囲気醸し出しています。毎年冬に開かれる、氷と雪をテーマにした「国際冰雪節」は世界的にも有名なイベントで、多くの観光客が集まります。近年はハイテクなどの産業育成を強化しています。

ウラジオストク市



- ◇人口：604,602人
- ◇面積：331.6km²
- ◇概要：ウラジオストク市は、ロシア極東最大の港湾都市です。日本など多くの国と航路で結ばれる海の玄関口であり、シベリア鉄道の発着地としても知られています。政府による自由港指定を受けビジネス環境の整備が進んでいるほか、オペラ・バレエ劇場などもあり文化活動も盛んです。

ピロビジャン市



- ◇人口：74,777人
- ◇面積：200km²
- ◇概要：ピロビジャン市は、アムール川を隔ててハバロフスク地方に隣接するユダヤ自治州の州都です。ハバロフスクの西170kmに位置し、日帰りでも気軽に訪問できます。1928年にユダヤ人入植地に指定され、ユダヤ民族の文化的遺産の発展と普及が図られています。

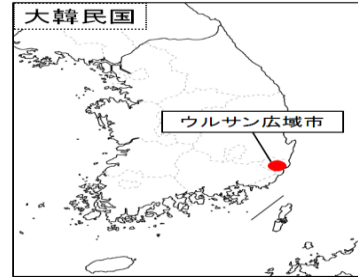
地域の概要

ナント市



- ◇人口：287,845人（2014年）
- ◇面積：65.19km²
- ◇概要：ナント市は、フランス北西部、ロワール川の下流に位置する水と緑に囲まれた美しい町です。ブルターニュ公城や大聖堂など、歴史的建造物が数多く残っています。重工業の衰退を契機に、文化による都市の再生を図っており、その取り組みは注目を集めています。

ウルサン広域市



- ◇人口：1,200,460人（2015年）
- ◇面積：1,060km²
- ◇概要：ウルサン市は、韓国南東部にある港湾都市で、重化学工業都市としても知られています。風光明媚な海岸と、ヨンナムアルプスと呼ばれる山々が東西に控える自然豊かなまちです。かつては伝統的な捕鯨基地として知られ、今でも市民のクジラに対する愛着は強いものがあります。

交流事業の概要

・新潟市は、ガルベストン市(米国)、ハバロフスク市(ロシア)、ハルビン市(中国)、ウラジオストク市(ロシア)、ビロビジャン市(ロシア)、ナント市(フランス)と姉妹・友好都市提携を行っており、交流協定を締結したウルサン市(韓国)を合わせた計7都市との間で、継続的な都市間交流を行っています。

・米国・ロシア・中国・韓国の都市間には、草の根交流を推進する市民委員会があり、ナント市との間では、市の提携に先んじて発足した市民有志の組織「新潟・フランス協会」が市民交流をリードしてきました。

・新潟市の交流の特徴は、国同士の関係が難しい状況にあっても、都市と都市の信頼関係を着実に積み重ねてきた点にあります。冷戦時代の1960年代に、ロシア極東に目を向けハバロフスクと姉妹都市提携を行いました。また近年では、中国・韓国との国家間関係が難しい中、「こんな時だからこそ地方同士の交流を」との思いから、東アジア文化都市事業をはじめ両国の都市との文化交流を積極的に行ってきました。

・国家間関係が自治体や市民の交流に大きな影響を与える今日にあって、こうした情勢に左右されにくい、都市間の強い信頼関係を築いていく「自治体外交」を今後も展開していきます。

・また、交流で培った信頼関係を基軸に、多都市間の交流ネットワーク作りにも取り組んできました。日ロ両国の都市が集う「日ロ沿岸市長会議」や、文化の面から日仏の都市が話し合う「日仏都市・文化対話」を姉妹都市とともに主導し、中国・韓国の都市とも東アジア文化都市の枠組みで結び付きを強めています。

・新潟市はこうした都市間ネットワークの結節点となり、交流を盛んにして地域の平和に貢献していきたいと考えています。また、豊かな食文化や水と土に育まれた風土など、世界に新潟市の魅力を発信し、多くの方に関心を持っていただく取組を続けていきます。

評価のポイント

・1960年代前半に始まった新潟市と北東アジア諸国との「自治体外交」が、継続・発展し、二国間から多国間交流へと面的な拡がりを見せている。

・「にいがた未来ビジョン」、行動推進理念「国際化推進大綱2015」を掲げ、今後も北東アジア諸国の創造交流都市として、中核的な役割を担い、成果が期待できる。

・「日ロ沿岸市長会議」は、46年間にわたって、地域間交流に役割を果たしている。
「三都市環境会議」は、23年にわたり、北東アジアの大気汚染防止策など、国際的な取組を進めている。「東アジア文化都市サミット」において、日中韓の都市が文化の力で、社会的課題を解決するための交流を進めようとしていることも期待できる。

・地道な交流を積み重ね、信頼関係を築いていることは、国際政治情勢に左右されない、自治体外交として、他の模範になり得る。



ガルベストン市使節団が「新潟芸妓の舞」を鑑賞



ハバロフスク民族アンサンブルが新潟まつりに参加



ウラジオストク市で「いけばな」ワークショップなどを開催



ウルサンで行われた少年サッカー交流



ハルビン市の医師らが新潟市民病院で研修を実施



ナント市で「日仏都市・文化対話」を開催

【問い合わせ先】

新潟市 国際課

住所：〒951-8507 新潟市中央区西堀前通6番町894-1 西堀6番館ビル5階

電話：025-226-1671 FAX：025-225-3255

E-mail：kokusai@city.niigata.lg.jp

URL：http://www.city.niigata.lg.jp/

総務大臣賞

大和高田市
(奈良県)

提携先:リズモー市(オーストラリア連邦)

提携年月日:1963年8月7日

姉妹都市交流事業

地域の概要

大和高田市



- ◇人口: 35,033人 (H29.4月)
- ◇面積: 16.48km²
- ◇概要: 大和高田市は、奈良県中西部に位置し、大阪のベッドタウンとして、奈良県で最も人口密度が高い市です。

昭和23年に市制を施行し、それを記念して、市民の有志により高田川畔の両側約2.5kmにわたって桜が植樹されました。

それ以降、高田千本桜として、奈良県を代表する桜の名所となり、桜の咲く頃には内外から多くの観光客が訪れています。

リズモー市



- ◇人口: 44,993人 (H28.6月)
- ◇面積: 1,290km²
- ◇概要: ニューサウスウェールズ州北東部に位置する都市であり、市名はスコットランド西部のリズモー島に由来するといわれています。主要産業は、酪農・畜産加工・果樹栽培・製材等で、亜熱帯雨林ツアーでも有名です。また、大学や総合病院を有する地域の教育・医療の中心地でもあります。

交流事業の概要

・1952年にリズモー市出身のポール・グリーン神父が高田の教会に赴任しました。神父が両国から募金を集めて幼稚園を設立したことがきっかけになり、大和高田市長と交流を持つように。当時はオーストラリア市民の日本に対する印象が悪く、両者で改善したいと、市長と神父が協力してリズモー市長に働きかけ、姉妹都市交流が始まりました。

・姉妹都市となる調印式が行われた8月7日には、意味があります。第二次世界大戦時、オーストラリアと日本は敵対国として戦った国同士。世界平和を祈り、友だちになろうとする日は、原爆が落とされた悲しい日の翌日しかないとして8月7日が選ばれました。

リズモー市から学生が派遣された時は、広島平和記念公園、広島平和記念資料館で平和学習を行っています。

・例年、姉妹都市を締結した8月7日に、親睦を深める一環として、スカイプでの交流を行っています。また、市内の小学生に、交流の歴史やリズモー市の概要を記載した冊子を配布しており、国際交流やリズモー市への理解と親しみを持ってもらえるよう、取り組んでいます。

・リズモーは大雨による水害が多く、今年も市内各地で洪水となり、水深が3m以上に達したところもありました。大和高田市では、リズモーで水害があった時は、募金活動を行いリズモー市へ送金するなど、両市民の絆は強くなっています。

評価のポイント

- ・日本で最初にオーストラリアの都市と姉妹都市提携を結び54年の長きにわたって、交流を続けてきたことは敬意に値する。
- ・世代を超えた交流サイクルが着実に根付いており、市民の姉妹都市交流への認知が高い。
- ・協会が制作した副読本「リズモーを学ぶ」を市内小中高校のすべてに配布し活用されており、国際交流事業と教育行政の協力・連携が活発である。
- ・従来の事業に加え、スカイプを使った交流、副読本の配布を使った広報活動など新たな試みを行っていることも、両市の関係をさらに発展させようとする明確な意思を感じ取ることができる。



姉妹都市連携の調印をした翌年、当時の
リズモー市長が親善のために、大和高田
市を公式訪問



姉妹都市締結50周年の年に、両市長がリ
ズモーで市旗を交換



50周年の年に、市民訪問団員がリズモー
で折り紙を教えている様子



広島平和記念資料館での平和学習



リズモーで開催された交換学生歓迎パー
ティー



スカイプでの交流

【問い合わせ先】

大和高田市 企画政策部 企画広報課 広報広聴係

住所：〒635-8511 奈良県大和高田市大字大中100番地1

電話：0745-22-1101 FAX：0745-44-3117

E-mail: takadasi@city.yamatotakada.nara.jp

URL : <http://www.city.yamatotakada.nara.jp/>

総務大臣賞

内子町
(愛媛県)

提携先: ローテンブルク・オブ・デア・タウバー市(ドイツ連邦共和国)
提携年月日: 2011年9月

姉妹都市交流事業

地域の概要

交流事業の概要

内子町



- ◇人口: 17,002人 (H29.4月)
- ◇面積: 299.43km²
- ◇概要: 県のほぼ中央部に位置し、県都松山市から南南西約40kmの地点にあたります。豊かな自然の中で、特色ある地域文化を大切に、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みの保存、棚田などの農村景観保全、グリーンツーリズム、農林業の活性化などの取組に力を入れ、小規模であっても生き生きと輝く町をめざしています。

ローテンブルク・オブ・デア・タウバー市



- ◇人口: 11,041人 (H29.4月)
- ◇面積: 41.75km²
- ◇概要: ドイツ南東部、ロマンチック街道と古城街道の交差点にあり、中世の面影を残す街並みには国内外から毎年大勢の観光客が訪れます。第二次世界大戦で建造物の40%以上が破壊されましたが、失われた中世の姿を取り戻そうと、厳しい町並み保存の条例や人々の熱心な努力により旧市街地の復元を今日まで続けています。

・昭和61年、内子町は「町並み保存とまちづくり」をテーマに、「内子シンポジウム'86」を開催しました。ここに、中世の町並み保存の取組で世界的に有名なドイツ・ローテンブルク市から、オスカー・シューバルト市長をお招きしたことがきっかけとなり、交流が始まりました。

・それ以降、市長・町長や議員などの公式訪問のほか、市民・町民の相互訪問、青少年海外派遣、町職員・ハム・ソーセージ職人研修など、草の根の交流が続けられています。

・特に青少年海外派遣事業は平成7年以降毎年実施し、平成28年度に22回目を迎えました。派遣生は289名、町民の約1.7%が経験した計算となります。

・交流事業は、町と(公財)内子町国際交流協会が連携して行っています。この協会は、ローテンブルク市との交流を行う中、「町民が主体の国際交流活動の母体を作ろう」という機運が高まり、平成6年に設立。町民から1億円(事業所184件、個人1500件、団体8件)と町から1億円(ふるさと創生事業)の合計2億円を基金とし、運営・活動しています。

・また、協会設立当初より企画・運営はボランティアによって行われ、ローテンブルク市との相互交流でも、イベントボランティアを努める町民が密接に関わり交流を進めています。

評価のポイント

- ・ 街並み保全、景観保全、暮らしやすい街づくりという目的をもって交流しており、理念が明確。小さい町が地道に相互交流を重ね、取組を拡大してきた点を評価。
- ・ 明確な目的をもって職員を長期派遣し、帰国後関連部署に配属するなどの青少年派遣事業は、町民の1.7%が経験し、進路に影響を与えるなど人材育成の成果もみられる。
- ・ ハム職人による内子ならではの味の提供、ドイツフェスタの開催などは、新しい産業の創出につながる。
- ・ ローテンブルク市との交流を通して、町民が国際交流の重要性に気づき、町民、事業所の寄付で国際交流協会が設立されたことは大きな財産。



交流のきっかけとなった「内子シンポジウム'86」



姉妹都市盟約締結の記念樹の前に立つ
第20回青少年海外派遣事業の団員



海外派遣OB・OG交流会（2004年8月）
OB・OGは現在合計289人



ローテンブルク市で開催した「内子フェア」
では、様々な日本文化を紹介



内子町特産の手漉き和紙を体験



内子町で開催した歓迎交流会では、
和太鼓演奏の体験も！

【問い合わせ先】

内子町教育委員会 自治・学習課

住所：〒791-3392 愛媛県喜多郡内子町内子1515

電話：0893-44-2114 FAX：0893-44-6137

E-mail: gakyusyujichi-s@town.uchiko.ehime.jp

URL : <http://www.town.uchiko.ehime.jp/site/miryoku/shimaitoshi.html>